



インフレーションに陥る

- 購買力後退による衰退の恐れから消費の押し上げ
- 低金利体制の促進
- 金融サービスの利益を上げるか実的なものにする (例: 金)

出所: ブルームバーグ

石油に関する異なる想定の下における、インドの経常赤字 (GDP 占率)

	US\$50/バレル	US\$25/バレル
2014 年度	1.7	1.7
2015 年度	1.4	1.4
2016 年度	1.2	1.2
2017 年度	1.5	0.3
2018 年度	1.8	0.7
2019 年度	0.6	-0.4
2020 年度	0	-1

出所: BofA メリルリンチ・グローバルリサーチ

1. インドが南アジアの成長を牽引: 世界銀行

世界銀行によると、インド経済は 2016 年の 7.5% から 2017 年には 7.7% に成長する見込みであり、南アジアを世界最速の経済成長を推進させています。

2. 信託投資のポートフォリオは 2016 年度、14% の増加を記録

インドにおける信託投資は、2015-16 年度に 590 万以上のポートフォリオを追加し、これはインド投資信託協会 (AMFI) によると、年度ごとに 14% の成長を示しています。

3. 海外直接投資流入の信頼感はポジティブであり、「メイク・イン・インド」は実を結んでいる: ムーディーズ

ムーディーズ・インベスターズ・サービス・レポートによると、外国投資を緩和する取り組みは複数のセクターに限定され、「メイク・イン・インド」キャンペーンは海外直接投資 (FDI) を増加させ、これにより、インドが経常赤字の状態でも融資を得ることに役立っており、レビュー時に格上げにポジティブに見なされます。

4. IMF はインドの成長予測を変更せず、世界的予測を排除

国際通貨基金 (IMF) は、2016-17 年におけるインドの成長率が 7.5% となる予測を変えず、低価格のエネルギー、および高い実質所得により支えられている、民間消費によって促進される成長を予測しています。

5. インドでは 2015-16 年における太陽エネルギー目標の 1.5 倍以上を達成

もう一つの大きな発展として、インドが 2015-16 年の太陽エネルギー目標の 1.5 倍以上を達成したことがあり、2015-16 年の間 2000 メガワット (MW) を目標とし、3018 メガワットを設置しています。2016-17 年終了時における累積目標は 17,000 MW であり、2016-17 年、インドでは最低 10,000 MW を追加されると予測されます。

6. エリクソン、ノキア、ファーウェイ、およびシスコはインドの「スマートシティ」プロジェクトに大きな賭けをする

エリクソン、ノキア、ファーウェイ、およびノキアといったグローバル企業はインドの「スマートシティ」プロジェクトに大規模な投資をしており、5 年間で 500 億アメリカドルのビジネスチャンスとなることが予測されています。

7. 外国企業によるインドにおける支局 (B0) / 連絡事務所 (L0) / プロジェクトオフィス (P0) の設置手続きの簡略化

インド政府は、インドにおける外国企業により支局 (B0) / 連絡事務所 (L0) / プロジェクトオフィス (P0) の設置に関する承認を付与する権限を、承認取引者カテゴリー I 銀行に委任しました。これは、インドでのビジネス遂行の容易性を向上させます。

8. 2月の総合消費者物価指数は 5.18% 下がり、1月の 5.69% およびコンセンサスより低いものである。

指数は 1 月に見られた上昇率 (0.2%) に対し、価格モメンタムにおいて前月比で縮小 (-0.3%) しました。価格モメンタムの下落は、全体的な飲食料指標の急落によるものです (総合消費者物価指数の 46% まで) (前月比で 1.1% の縮小)。

本レポートはシェア/ユニットへのオファーを構成するものではなく、推薦、意見の陳述、または広告でもありません。また、これは証券の価格もしくは比率に関する今後の移動の推測、または表示ではありません。上記文書の内容は、本文書を受け取る特定の人物への特別な目的、財務状況、および特定のニーズに関連する目的の情報ではありません。本資料の利用者は、本文で参照されている証券、金融商品、または投資戦略において、投資の妥当性に関する意見を求めてはなりません。